

続・続・二上山に咲く花々 31

コ克蘭 (黒蘭) ラン科クモキリソウ属

写真は故澤木仁さん

7月、コ克蘭が花を開きます。地上に生えるランで、二上山では林の下、溪流の脇、竹藪の中などでも自生しています。高さは15cm～30cm。

地表に光沢のある3～5枚の卵状楕円形の常緑の葉を広げるので、花期以外でも、注意していればすぐわかります。

名は花の色から

その葉の上に、まっすぐ花茎を伸ばし、独特の形をした花をまばらに着けますが、その花の色が暗紫色で地味なので、目立ちません。でもその地味さが幸いしてか、人間による盗掘、乱獲を受けないで済んでいるように思われます。

種名はこの花の色によるもの。

花期は6～7月。



続・続・二上山に咲く花々 32

キラソウ (金瘡小草) 別名ジゴクノカマノフタ

シソ科キラソウ属

写真は故澤木仁さん

目を引く濃紫色の花

山に行かなくても、田畑の畦などに咲いていますが、意外と知られていません。二上山でも、登山道の各所でひと群れずつ、静かに咲いていますが、目を引くのは濃い紫の花色。

名は花の色から

和名の由来には諸説あるようですが、この花色にかかわる説が多いのです。一例をあげると織物の金襴(きんらんどんすの金襴)に見立てての「キンランソウ」からの転訛説。

身近な薬用植物

漢字表記の「金瘡小草」は中国名で



すが、そのまま当て字として使用。金瘡は刀傷のこと。この植物が刀傷やうち傷に有効だからとのこと。日本でも切り傷はもとより、高血圧、去痰、鎮咳、解熱、健胃、下痢止めなどの薬として使われてきたようで、地方には「イシャゴロシ」とか「医者泣かせ」の異名も。

別名の「地獄の釜の蓋」とは

この変わった名は、キランソウの茎、葉が地面を這うように広がって、地面を覆うようになる生態が地獄への通路を塞いでくれる、の意味と、万病を治す効能が命を助けるの意と、二つの意味からの命名のようです。面白いですね。ちなみにシソ科なのに、茎が丸いのも特徴。花期は春から初夏。



くりぬいた岩の中の石仏(赤坂山・栗柄峠)

続・続・二上山に咲く花々 33

ムラサキニガナ(紫苦菜) 写真は故澤木仁さん キク科アキノノゲシ属(ムラサキニガナ属の説も)

6月～8月、二上山のいたる所で、長い(60～120cm)茎を立て、花の重みなのか、登山道に倒れ掛かるように、行く手をさえぎります。

そして、すでに始まっていますが、花が実を結んで、白く長い綿毛(冠毛)を付けた種子が風に乗って四散し、繁殖域を広げていきます。

地域によっては絶滅危惧種

二上山では、普通にみられるこの種も、地域によっては絶滅危惧種とされており、大切にしたいですね。



参議院選挙でのご支援 ありがとうございます

7月10日投開票された参議院選挙で、日本共産党を支持して下さった皆様に、心から感謝申し上げます。ロシアによるウクライナ侵略によって「戦争か 平和か」が大きな争点になるもとの、「戦争反対・憲法をいかした平和外交を」と訴え、同時に暮らし、健康、民主主義をまもる政策をかかげて、懸命な努力をいたしました。力及ばず、参議院での共産党議席を後退させてしまいました。申し訳なく思います。

党創立100年の今年、さらなる努力を

日本共産党はこの7月15日で、党創立100周年を迎えました。第2次世界大戦前から、時には激しい弾圧に抗して、国民の皆様とともに、平和・くらし・民主主義をまもり、社会進歩のために歩み続けてきた日本共産党の歴史を踏まえ、さらなる努力を続けます。皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。

憲法改悪を許さず、くらしまもる取り組みの強化を

なぜ、我々は後退したのか、選挙戦での訴え、取り組みなどを振り返り、前進のための糧にしなければなりません。どうか忌憚のないご批判、ご意見をお寄せください。

ただ、立ち止まるわけにはいきません。改憲を許さず、くらしをまもる取り組みにお力をお貸しください。